

大分県シェアリングネイチャー協会 派遣事業報告書

[由布くぬぎの森シェアリングネイチャーの会 氏名 末光 良一]

行事名 「男池からかくし水」大自然を体験しよう！！	依頼者 由布市 西庄内児童クラブ
活動日 2015. 8. 22 (土) 11時～14時30分	活動場所 由布市庄内町阿蘇野 男池周辺
対象者 幼稚園児、小学校1年～3年生とクラブ指導員	参加者数 30人

内容

実施者：古野礼子、首藤順子、末光良一、(サブ：小野百合)

- 1 男池からかくし水まで 自然の中でネイチャーゲーム
- 2 巨木(ケキ、ヒヨウ、エノキ)と石をつかむ木々、コナラの森を体験
- 3 かくし水まで行ってきたよ。お母さんのお土産は「かくし水」だよ。
- 4 わかちあい

感想

残暑の日射しが森の木々や生い茂る葉っぱをくぐり抜け汗ばむ程の活動となりました。(下界よりも涼しいのですが。エネルギーな子どもたちとともに過ごしたせいかな)子どもたちのほとんどは、「男池」の水をすくって飲むことや「かくし水」まで登ったのは初体験でした。クラブに帰って、スイカを頬張る子どもたちの元気モリモリにカコブ・・・だ。

さて、クラブの子どもたちは男池駐車場に由布市役所の貸切バスでお昼前に到着。男池に向かう橋上、清流を聞きながら目を閉じて「音いくつ」、ケヤキの大木に会うまで「目隠しいもむし」。木をつかむオヒョウを「巨人の手」、幼稚園児からは「キリンさん」との声。「かわいいね。」

コナラのもりで一休み。トイレ休憩でまた駐車場へ、振出しになりながら、30名は「かくし水」に向かうことに決定。エゾエノキの「王様の木」では、その大きさに圧倒と思いきや、アニメのキャラクターや映画のヒーローが飛び出して「この木を切り倒すポーズとしぐさ。」巨木に立ち向かう若き戦士の一部始終を数人の子どもたちが私に披露してくれました。「強！」

かくし水まであと100m足らず、梅雨長雨の影響で道が傷み、根がむき出しに。痛々しさを気遣いながら全員「かくし水」に到着。みんな仲良く並んで竹の樋から流れる清流を美味しそうにのんでいました。「水筒にかくし水入れたよ。お母さんのお土産だよ。」一人の子どもが言うと他の子どもたちも水筒口を樋に差し込んでいました。

膝を擦りむいたり、こけてお尻や両掌を痛めたり。でも、誰一人涙が流れませんでした。男池の川に流れる冷たい水で癒し、黒岳の山から下りていきました。山の神さま。ありがとうございます。

